

幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局 橋本守行
電話090-7746-8689

第 26 号
令和 2年 9月 1日

幸若講座再開

第八六回講座は、八月二日開かれました。この日は木下会員より、千葉亮「白山平泉寺・白の聖都」(幸若大夫・朝倉一乗谷・郡上八幡・平泉寺などが登場)の紹介ののち、第六二、六四項の講義を山口顧問から受けました。幕末期の幸若家の苦しい台所事情が話題となりました。

た報告がありました。その昔は本県の奥越と岐阜県の白鳥や郡上地方は一体的な文化圏を形成しており、「打波」の地は、山間の小集落ながら、重要な役割を果たしていたというもの。

新型コロナウイルス対策のため四、六月の間、休会を余儀なくされていた幸若講座が再開されました。第八五回講座は七月二、四日、一、二名の会員が参加して行われました。第五七項から六一項まで山口顧問の講義を受けました。主として幸若諸家の家系や屋敷の配置などを学びました。また、江戸時代初期のころには、名人と称された幸若庄兵衛正利が一族三組二〇名に音曲を指南したとあることや紀州徳川家においても幸若舞が上演されたとの記録があり、まだまだ幸若エネルギーが盛んであったことが知られます。なお、本会の冒頭に木下会員から「白山民謡文化圏奥越前系・民謡踊りの古里打波」と称し



信長墨絵 入館券に

滋賀・安土城郭資料館 魅力PRへ

滋賀県の近江八幡観光物産協会が、戦国武将・織田信長や安土城を劇画タッチの墨絵で描いた安土城郭資料館(近江八幡市安土町)の入館券を作った。NHKの大河ドラマ「麒麟がくる」に合わせ、安土の魅力PRする狙いで、来館する歴史ファンを呼んでいる。入館券は縦13センチ、横4.5センチ。全3種類で横に並べると、表は安土城と信長の絵、裏面は幸若舞を舞う信

福井新聞記事7月16日

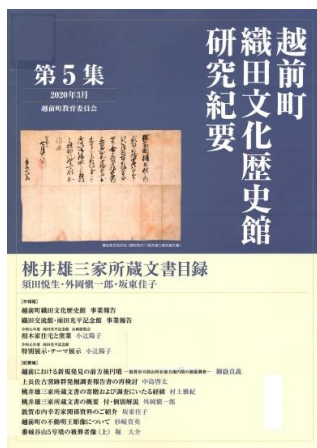
近江八幡市研修旅行 参加者募集!

本会恒例の秋の研修旅行は滋賀県近江八幡市の安土城を中心とした視察を予定しています。

その実施要領は下記の通りですので参加希望者は申し込みをお願いします。

- 実施期日 10月18日(日)
- 集合解散 午前8時集合午後5時30分解散
いずれも役場前駐車場
- 主な訪問地 安土城、資料館、八幡堀など
- 参加負担金 2千円/人
- 申し込み〆切 9月末日
- 申し込み先 橋本090-7746-8689
または 月田090-2127-7856
- その他 越前町のマイクロバスを利用します。

埼玉県・桃井雄三家所蔵文書 調査報告書刊行



ほとんどが専門家による「研究論文」であるが、1冊1000円で販売されている。A4判120ページ。問い合わせは「織田文化歴史館」まで

越前町教育委員会が平成三〇年に埼玉県桃井雄三家から寄贈された同家所蔵文書について、専門家による調査分析が行われていました。このほどの成果の一部が「織田文化歴史館研究紀要」第五集の一部として刊行されました。

同文書は信長・秀吉時代、江戸時代、明治以降の三期に分類されて解説されています。

内容としては、幸若音曲に直接関係すること柄はほとんどなく、知行地のこと、家系などが大半を占めている。一部は次号に先送りされている。

なお興味深いのは、いったん東京に引揚げ神田区駿河台に住んでいた東京府士族・桃井直純が明治十年家業都合により、「西田中村」に再び転居するための送籍願が紹介されている。

□

「幸若舞」伝来資料を精査
越前町教委 研究紀要を発行

越前町教委はこのほど、同町織田文化歴史館研究紀要を発行した。同町朝日地区が発祥の地とされる曲舞「幸若舞」に関する研究成果など、町内外の学芸員らの論考が載っている。

研究紀要は毎年発行され、年報編と紀要編の2部構成となっている。

今回の紀要編は幸若舞の祖、桃井直詮の流れをくむ敦賀幸若家に伝来した資料「桃井雄三家所蔵文書」に関する研究がメイン。同文書は2018年3月に

越前町に寄贈された。来年度に同町で予定されている第29回織田信長サミットに合わせて計画している企画展覧会の前に学術的位置付けを図るため、外部の有識者に依頼して内容を精査した成果を紹介している。

このほかにも町内の古墳、仏像、善悪辞に関するものや、敦賀市の前方後円墳に関するものなど6本の論考が掲載されている。

A4判、120頁。500冊発行し、300冊を県内外の図書館や博物館などに配布した。1冊千円。問い合わせは織田文化歴史館 ☎0778(36)22880。(田中愛子)

福井新聞記事 7月1日

山口顧問による幸若講座(歴女の会)は毎月第4かまたは最終金曜日開催です

現代版幸若舞練習再開！



マスクを着用しての練習

コロナ対策のため、今年3月より町生涯学習センターでの幸若舞の練習が中断されていました。

その後、6月より学校が再開され、7月よりはコロナ感染対策を講じた上での同センターの使用が許可されました。

そして、各自が体温測定、手の消毒を行い、マスクを着用しての練習が7月4日再開されました。

久しぶりの練習でしたが、友達とあって、幸若の曲が流れだすと、舞いを思い出し、また初めての舞にも取り組んでいました。練習生を募集しています。お問い合わせは松田会員まで。090-6275-2770



とうとう越前町でもコロナ感染が確認されました。幸若ゆかりの朝日観音福通寺では、このほどコロナ退散を願って護符をつくりました。(名刺大)



大江天満宮

本年度も、来年1月19日(火)～21日(木)まで福岡県みやま市の大頭流幸若舞の視察交流を予定しています。詳細の募集要項は次号(27号)に掲載しますが、ご承知おきお願いいたします。

大頭流幸若舞視察団
派遣予告

当面の主な日程

理事会	9月11日	19時	青少年ホーム
			特別会計補正、幸若屋敷跡石標など
例会(語り部の会)	9月11日	19時30分	青少年ホーム
幸若講座	9月25日	13時30分	幸若情報センター
近江八幡市研修旅行	10月18日	1面記事参照	

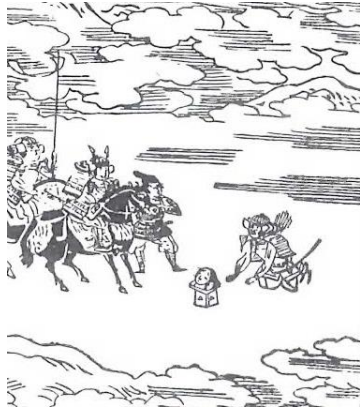
幸若音曲解説シリーズ②

敦盛

顧問・山口信嗣

一の谷の合戦は寿永三年(一一八四)二月七日に行われた。敗れた平家の敦盛は、恋人に笛をとり、遅れてただ一騎で沖の舟に向かう。功名を焦る源氏の熊谷直実は、呼び止めて勝負をいどむ。忽ち組敷いた熊谷は、名乗らせる。

そも／＼、此たび平家一の谷の合戦に、御一門、侍大将、総じて以上十六人の組足のその中に、ものあわれを留めしは、相国の御弟経盛の御子息に、無官の大夫敦盛にて、ものあわれを留めたり。



敦盛の「首」検分

直実は、我が子と同年(十六歳)と知って助けようとするが、囲む源氏勢に涙をのんで打ち取る。屍を平家方に送り状を添えて届ける。平家方は悲しみつつ感謝状を。

菩提心を起した熊谷は、黒谷の法然の許で出家し、蓮生房と名乗る。やがて高野に登って行いすまし往生す。題名は「敦盛」とするが、内容は敦盛を討って菩提心を起した荒武者直実の発心遁世を物語るものである。

人間五十年、化天の内を比ぶれば、夢幻のごとくなり。一度生を受け、滅せぬ物のあるべきか。急ぎ都に上りつゝ、敦盛の首を見れば、もの憂さに、獄門より盗み取り、御僧を供養し、無情の煙となし申す。

御骨をおっとり、東山黒谷の住み給う法然上人を師匠に頼み奉り、元結切り、西に投げ、その名を蓮生房と申す。ある時心の内に思ふやら、紀の国に御立ある高野山へ参らばやと思ひ、上人に御暇申し、頭陀の縁笈肩に掛け、奥の院へぞ参りける。道の辺りの白骨は、砂子を撒くがごとくなり。奥の院へ参り、敦盛の御骨を籠め置き、蓮華谷の傍ら

幸若舞は踊りもさることながら、「語り」の芸能としても知られています。その題材は平家物語「敦盛」をはじめとして、今でもひろく日本文化を貫く一大叙事詩となっている「大織冠」「勸進帳」など多岐にわたっています。「浜出」は第22号に掲載しました。そこでご存じの方も多いたとは思いますが、あらためて幸若演目の解題を当会の山口顧問に連載形式でお願いすることにいたしました。

に、知識院と申す庵室を結び、八十三と申すに、大往生を遂げにけり。悪に強ければ、善にも強し。文武二道の名人、漢家は知らず、本朝に、かかる兵あらじと感ぜぬ人はなかりけり。
(出典資料「寛永版舞の本」
三弥井書店一九九〇年)



熊谷次郎丹治直実